

一般演題

I. 児童・思春期・青年期

1. 児童心理治療施設における心理劇 —児童や話題と共に変化する心理劇の機能—
井野めぐみ・小山龍太・神田大玄・菊池清美・堀川公平 (社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園)
2. 児童心理治療施設 A 園における治療共同体 —繋がり支え合う全体スタッフ・ミーティング—
菊池清美・小山龍太・井野めぐみ・神田大玄・堀川直希・堀川公平 (社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園)
3. コミュニティ・ミーティングの役割 —新型コロナウイルス感染症の話題を通して—
神田大玄・菊池清美・堀川直希・堀川公平 (社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園)
4. 小学生における言語媒介グループの成立過程とその効果 —Child-Staff Meeting の実践を通して—
小山龍太・菊池清美・堀川公平 (社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園)
5. 当院における中高生を対象とした外来集団精神療法について —C クリニックでのとりくみの報告—
高富栄 (ココロのクリニック)
6. 中学生にとっての“グループ”の意味 —受容体験及び対決体験が心理的成長に与える影響—
山口千鶴¹⁾・巖岩秀章²⁾ (¹⁾埼玉工業大学大学院 ²⁾埼玉工業大学)

II. 癌患者

7. がん患者への集団精神療法における実存的苦痛の改善プロセス —参加者の語りを中心に—
中村千珠・河瀬雅紀 (京都ノートルダム女子大学)
8. COVID-19 の影響下におけるオンラインがんサロンの展開
円山 拓子¹⁾²⁾・大島 寿美子¹⁾³⁾ (¹⁾キャンサーサポート北海道 ²⁾北海道医療センター ³⁾北星学園大学)

III. Covid19

9. コロナ禍の依存症臨床 —構造変更プロセスに焦点を当てて—
加藤祐介・永尾奈生実 (赤城高原ホスピタル)
10. コロナ禍のグループ心性
黒崎優美 (神戸松蔭女子学院大学)
11. COVID-19 禍における対面グループのオンラインへの移行
—「丁寧にグループを勉強する会」におけるメンバーへのアンケート調査結果から—
杉山恵理子¹⁾・藤巻加奈子²⁾ (¹⁾明治学院大学 ²⁾誠心会神奈川病院)

IV. 依存症

12. 依存症病棟におけるグループの実際
山崎圭美・樽谷精一郎 (特定医療法人 大阪精神医学研究所 新阿武山病院)

V. メンタライゼーションに基づく治療

13. メンタライゼーションに基づく治療(MBT):グループでの実践例 —MBT の集団療法と個人療法の比較—
荻本快 (国際基督教大学教育研究所)
14. メンタライジングな組織作りを考える —スケープ・ゴート理論を手掛かりとして—
大橋良枝 (聖学院大学)

VI. 実践・研究報告

15. 不登校の親の会のコンサルテーション
野島一彦 (跡見学園女子大学)
16. マインドフルネスの定着と症状変化の関連について
高橋さやか・徳永雄一郎 (不知火病院)

17. 災害後の多様な「持ち場」をグループの視点で考える
藤澤美穂 (岩手医科大学教養教育センター)

18. 治療者からみたグループの意義とメンバーの体験の整合性 —SCT グループの質的研究から—
鴨澤あかね¹⁾、大島寿美子¹⁾、水川喜文¹⁾、泉屋有理²⁾ (¹⁾北星学園大学 ²⁾相川記念病院)

19. コンダクターが途中で入れ代わるグループ —グラウンドルールの変化を受け入れる—
橋本明宏 (慈雲堂病院デイケア)